

国語 第1学年 さとうとしお

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある5月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「二つのもののどこを比べると違いが分かるか」を問い、説明される事柄を本文の言葉で確かめ、共通点と違いを整理して話す。比べたことの整理表の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)ア	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(2)ア	ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、誰が何をするかに着目し、文の主語と述語の関係に気付く。思考・判断・表現では、説明される事柄を本文の言葉で確かめ、共通点と違いを整理して話す。交流や試行の前後を比べ、比べたことの整理表を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①誰が何をするかに着目し、文の主語と述語の関係に気付いている。 （〔知識及び技能〕(1)カ）	①「読むこと」において、説明される事柄を本文の言葉で確かめ、共通点と違いを整理して話している。 （C(1)ア・C(2)ア）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○文の中の言葉の関係と事柄の順序に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す比べたことの整理表の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3 （本時は3時）	○説明される事柄を本文の言葉で確かめ、共通点と違いを整理して話す。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○二つのもののどこを比べると違いが分かるかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	4	○比べたことの整理表を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：説明される事柄を本文の言葉で確かめ、共通点と違いを整理して話することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「二つのもののどこを比べると違いが分かるか」 【めあて】文の中の言葉の関係と事柄の順序について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ観点で見ると違いを説明しやすい。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。知っていることを本文に書かれたことと混ぜる姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 説明される事柄を本文の言葉で確かめ、共通点と違いを整理して話す。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「二つのもののどこを比べると違いが分かるか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 ○説明の中心となる文を取り上げ、何がどうするのかを確かめ、主語と述語を対応させる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ観点で見ると違いを説明しやすい。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	本文で確かめたことと自分の経験を別の欄に置く。知識・技能では、誰が何をすることに着目し、文の主語と述語の関係に気付いている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①説明される事柄を本文の言葉で確かめ、共通点と違いを整理して話している。(C(1)ア・C(2)ア)(本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 比べたことの整理表を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】文章の中心と、それを説明する事柄との関係を確認めると、内容や伝え方の工夫を説明できる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。二つのもののどこを比べると違いが分かるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①(比べたことの整理表と実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

板書の構造(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には文の中の言葉の関係と事柄の順序を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に比べたことの整理表で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、知っていることを本文に書かれたことと混ぜることである。本文で確かめたことと自分の経験を別の欄に置く。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

比べたことの整理表 「二つのもののどこを比べると違いが分かるか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。本文で確かめたことと自分の経験を別の欄に置くための補助欄も用意する。
見直しの理由を記すカード 初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重